

## I 4年生 「本物の覚悟を持とう」

### 1 「往く道は精進にして、忍びて終わり悔いなし」

平成 26 年に 83 歳で無くなった映画俳優 高倉健さんが生前心に刻んでいた座右の銘です。高倉さんは、この言葉を胸に刻み、自らの進むべき道を信じ、精進（努力）したと語っています。覚悟ができたお陰で、熾烈を極めるような環境でのロケにも耐えることができ、悔いを残すことはなかったそうです。

誰でもそうですが、立派な夢や目標は持てますが、その達成は難しいものです。最初は、何があっても達成するまでやり抜こうと決意していたにもかかわらず、達成の兆しが見えなかったり、孤独な戦いが辛くなったりすると、自分にとって都合の良い勝手な理由を作り、努力を続けることをやめてしまいます。「自分には才能がなかった」ならまだよいですが、ときには「お金がなくて続けられなかった」「誰も助けてくれなかった」などと、責任を自分以外のことにすることさえあります。高倉さんが持った本物の覚悟がないのです。偽りの覚悟しかないから、辛さや苦しさに負け、勝手に自分の限界を決めつけ、あきらめてしまう。支援してくれる人に嘘をつき、逃げようとする。私も本物の覚悟を持とうと努力していますが、正直に言って持てていません。愚痴を口にするこゝももあり、己の弱さを痛感するばかりです。ただ、決めていることがあります。できなかった理由を、絶対に他人のせいにはしないこと、自分の努力が足りなかったことが唯一の原因であるとするこゝです。いつかは、本物の覚悟を持ってやり切ったという充実感を味わいたいものです。

### 2 数年前になりますが、ある国立大学を訪問したときに、准教授の先生から話を聞かせてもらいました。主な内容を記します。

- ・ 生徒には、大学に行く目的をはっきりさせる。
- ・ 背伸びした大学選びをさせる。入学後も、自主的に背伸びして成長しようとする。
- ・ オープンキャンパス等を利用して、志望校に行って自分の想像と合致しているのかを確認してみる。さらに、知りたいことを当該校の学生に直接聞いて調べてみる。
- ・ 大学の偏差値やランキングには理由があると知る。偏差値やランキングは、学生が成長できる環境であるかどうかで決まっている。例外はないと思うこと。
- ・ 国立と私立では中退率が違う。（教員一人当たりの学生数が国立は少なく、恵まれている。）
- ・ 学生を新規採用しようとする企業は、ターゲット大学を決めている。（2014 年企業の 52% は決めていたとのこと。）ターゲット大学以外の学生からエントリーシートが送られてきても、就職試験を案内することはない。結果的に、企業は学歴を問うている。
- ・ 医学科に行くには、センターで 85%（760 点以上/900 点） + 2 次で 75% の得点をとればよい。そのためには、練習が全て。地頭は関係ない。全国の医学科入学生の割合が現役：浪人 = 2：8 であることが、それを裏付けている。

上の内容が全て正しいかどうかは分かりませんが、話をしていただいた先生が前職（岡山にある教育関連企業）のときに全国を回って集めた情報ですから、信頼できるものだと思います。学歴社会は終わったと言われて久しいですが、全てを鵜呑みにせず、自分で情報を集め判断する習慣を身に付けましょう。

4 年生の皆さん、真剣に進路のことを考えていますか。いつから受験のことを意識していけばいいのか。早すぎるということはないです。少しでも早く始めて楽をするのが、賢い生き方かもしれません。

## II 5年生 「謙虚さ」

1 皆さんは『進路の手引き』を読んだと思います。この冊子には、受験に関して知っておかなければならない情報や必要な知識等が掲載されています。全てを精読してほしいのですが、特にと言われれば、「先輩からのアドバイス」については熟読することを勧めています。実際に受験を経験した者にしか語りすることができないエッセンスがちりばめられています。高校入試を経験していない者が「大学や専門学校の受験」という苦痛の時間の中を、迷いながらも遠くに見える小さな明かりを見失わず、不屈の闘志を持って駆け抜けた先輩たちの声に、ぜひ耳を傾けてください。

2 「先輩からのアドバイス」を読んでいくと、先輩たちに共通していることが二つあることに気づくはずですが、

一つは、目標を早く決め、受験勉強を早期にスタートすること。本当に単純なことであるが、簡単なことではありません。受験では、スタートのピストルは誰も鳴らしてくれません。スターターは自分でなければならないのですが、それほど遠くない将来を真剣に考えていなかったり、日々の楽しさに満足してしまったりして、引き金に添えた人差し指を引くことができない生徒がいかに多いことか。「受験は団体戦」という人がいます。苦しいときに励ましてくれる友人は本当に貴重です。また、そのような友人がいるからこそ、最後まで挑戦しようという勇気が湧いてきます。しかし、目標は一人一人異なるわけですから、最終的には自分とのたたかいはほかなりません。なでしこジャパンのGKとして活躍した海堀あゆみさんは、現役を引退する理由の一つとして「日々一番のライバルである自分自身に勝てなくなったから」をあげていました。自分に勝てるかどうかは別として、自分自身とたたかうことに挑戦しない人間に充実した人生など到底歩めないでしょう。

3 2つ目は、苦しみの中にも楽しさを見出し、いかに継続していくかということです。夏を制する者が受験を制する」という言葉があります。この言葉の意味は、「夏休みの間、死ぬほど勉強すれば志望校に合格できる」ということではありません。たった1か月しかない休みに、無謀とも思える勉強スケジュールを組み込んだとしても、間違いなく挫折するであろうし、そもそも1か月程度で受験に必要な学力は身に付きません。「暑くてたまらない、勉強には適さない夏に、計画的に勉強できる者ならば、どのような状況であっても受験勉強を継続することができ、ひいては受験に打ち勝つことができる。」という意味だと解釈します。現在ではエアコンが普及し、その言葉の重さは昔ほどではないと思いますが、その精神は今も通用するはずですが。高校入試を経験しないことには、メリットもデメリットもあります。そのデメリットを克服するには、自分が立てた計画を最後までやり通したという成功体験を数多く積んでいくしかないと思います。

4 これからの1年間は、謙虚さを持って生きていってください。理解するという意味の英語「understand」は、「under」と「stand」から成っており、言葉の語源は「下に立つ」ということになります。理解するとは、相手の下に立つ、つまり相手を尊敬し、相手から学び取ろうという謙虚な精神がなければならないのです。謙虚さのない理解は、次に進むべき道を示しません。本当の「理解した」「分かった」は、同時に次の疑問を生じることになり、学習に深まりをもたらせません。自分自身に謙虚さを持って、努力しましょう。

### Ⅲ 6年生 「1か月でやるべきこと」

1 まずは、6年生の皆さんにお礼を言うておきます。本校に赴任してから、これはすばらしいと思うことの一つに、全校朝礼があります。1000人弱の生徒が集まるだけでも大変なわけですが、全員の生徒が言葉を発せず静かに開始を待っている姿には頭が下がります。ときどき、職員朝礼が長くなり遅れることもありましたが、そのようなときも静かに待っていてくれました。6年生の行動が下級生に伝播した結果だと高く評価します。学校として習慣化し、それを価値のあるものへと変えようとするれば、どんな些細なことでも、「学校の風土」や「学校の文化」になります。さらに、本校独自の風土と文化が受け継がれれば「伝統」になるのだと思います。君たちのお陰で、全校朝礼が本校の「伝統」の一つになりきっているかどうかは分かりませんが、その域に近づきつつあるのは間違いありません。今後、皆さんの後輩が、先輩の意思を引き継ぎ必ずや「伝統」にしてくれるはずです。ありがとうございました。

2 センター試験まで1か月を切りました。総仕上げは捗っていますか。試験のことを考えると、不安になるだろうし、気持ちも焦るでしょう。「もっと早く始めておけば良かった」「夏休みに、しっかりと勉強しておけば」「時間は短くても、毎日勉強しておくべきだった」などと反省している人もいられるかもしれませんが、今はこれからの1か月のことだけを考えましょう。では、皆さんにできることとは何でしょうか。それは、試験前日まで勉強してきたことを本番で出し切るための準備をしていくことです。米大リーグのニューヨークヤンキースで監督をしたジョン・トーリ氏は次の「100%理論」を唱えています。

- 自分の力の70%しか出さないのは怠けだが、120%の力を出そうとしてもいけない。
- 自分の持っている力(100%)を出し切れればいい。
- 100%を出すために必要なのは、自分にできることを把握すること。
- 自分にコントロール可能なことと不可能なことをしっかり分けて考える。

これらができるようになるには、

- ① 自分がこれまで経験してきたことで、どう成功したか、どう失敗したかを記憶しておき、同じ失敗を繰り返さない。
- ② 普段の生活の中に「ルーティーン」をつくる。
- ③ 目標をもってそこに向かう。(120%を求めない。)
- ④ あるがままの状態を受け入れる。(自分にできることを把握する。)

などが大切である。

試験にも当てはまります。普段の得点が70点くらいなのに、120%の84点を目標にすると、普段はできるミスが許されなくなり、必要以上に追い込まれます。人はプレッシャーがかかればかかるほど、ミスを起こす確率が高くなるので、結果的に8~9割(約60点)の実力しか出せないものです。100%の力を出す、つまり普段できることをできるようにする、当たり前前かが当たり前前であればよしとすると考えられるようになることが「平常心」につながります。結局は、センター試験にも特別な対応をするのではなく、これまでと同じような学習を行いながら、規則正しい生活を送ることが大切です。やるべきことをやれば、後は神様に委ねましょう。

3 もう一つ言うておきます。最後まで頑張りなさい。あきらめなければ、良いことがあります。指導してきた生徒の中には、あきらめなかったというだけで奇跡のような経験をされた者もいます。神様は、乗り越えられない試練を与えない。私はそう信じています。